



安藤 広大
識学
取締役社長

早稲田大学ラグビー部での 経験が人生に与えてくれた影響

私は、大学での4年間体育会ラグビー部に所属していました。4年間で最も人生に影響を与えてくれたエピソードをご紹介します。「達成したいと本気で思えた人間だけが達成できる」というエピソードです。

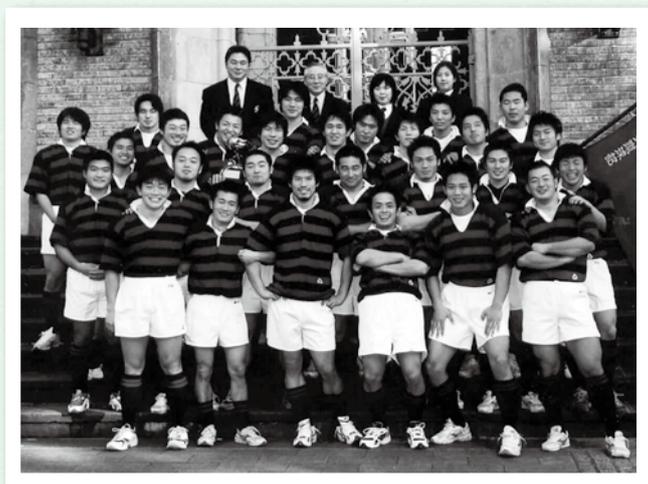
私は4年間レギュラーをつかめませんでした。一方で、私が4年時の夏合宿の時には一緒にCチームにいた一学年下の後輩はレギュラーになることができました。

夏合宿のお風呂場での会話を今でも覚えています。「〇〇さん(当時のエースプレーヤー)を倒して僕が必ずAチームに行きます」と本気で言っていました。周りから見るとその後輩とエースだった〇〇の実力差は明らかで、私もそんなの絶対無理だろと思いながら聞いていました。私のポジションにも高校日本代表を経験したメンバーがいましたので、彼らに勝つなんてことは考えずに、Bチームまで上がって彼らがけがするチャンスを待とうと考えていました。

本気でAチームを目指していた後輩と、Bチームでおこぼれを狙っていた私。結果的には、後輩はそのシーズン、レギュラーで大活躍しました。一方で、私は、Bチームに上がった瞬間に大けがをして大学ラグビー人生が終わりました。恐らく、Bチームに上がったことで満足してしまい、心に緩みがあったのだと思います。

口では「一軍で試合に出たい」と言っているが、目標を達成した後輩と比較したときに、本気で達成したいと思えていなかったことを反省しました。それが、日々の行動一つひとつも少しずつ手を抜くことになっていたのだと思います。

社会に出てからは自分で掲げた目標に対して、「掲げただけ」にすることなく、とにかく本気で達成することを考えて取り組むとの約束を自分と交わして生きてきました。「会社を上場させる」と掲げた目標が期日通りにできたのも、この時の経験があったからかもしれません。



筆者は最前列右から3番目